

公民館を地域防災の拠点に！

災害時に即応した防災学習と訓練

常に進化を

金沢市新神田公民館

1、はじめに

(1) 地域の概要

新神田校下は金沢市の西南部に位置し、北陸線（北陸新幹線）、犀川、伏見川に囲まれた地域です。市中心部に近く北陸自動車道、国道8号線に直結することから住宅が軒を連ねるようになり、1976年（昭和51年）高岡中学校が、5年後に新神田小学校も開設。同時に新神田校下が発足しました。

(2) 地域防災事業のねらい

当館は、地域の生涯学習の拠点として学習機能を果たすほか地域防災にも力を入れています。

当校下は、住み良い環境であり、ますが、最近の集中豪雨時には、犀川、伏見川の水位が上昇すると内水が氾濫する場合があります。毎年、土のう積み訓練をしています。各町会では、安否確認、情報収集、土のう積み訓練などを重ね防災に興味を持って貰っています。

市の地域防災計画は、公民館や小・中学校が指定避難場所です。毎年、自主防災訓練を新神田小学校で実施。2015年6月で通算19回目となりました。

公民館は災害時に老若男女を問

わず地域の皆さんに頼られている場所です。高齢者、障がいのある方は公民館の和室を希望します。公民館に避難したときは開設しなくてはなりません。公民館も避難所の開設運営訓練をしなければなりません。

2、事業の内容

校下には、新神田校下防災対策委員会（防災会）があります。



公民館委員、赤十字奉仕団による災害ボランティア受付訓練

公民館は防災会に積極的に関与しています。館長は防災会の副会長を担い、各種訓練の活性化、避難所の開設運営訓練に関わって

ます。日頃から館長が率先して公民館職員・公民館委員に災害ボランティア受付訓練・ニーズ把握訓練、避難所開設運営のためのワークショップ（HUG訓練・避難所運営ゲーム）を実践しています。



市職員、公民館委員によるHUG訓練・ワークショップ

(1) 防災学習

地域防災は、地震、津波、土砂崩れ、液状化、水害など地域の特性を考えた学習・訓練が必要です。当地は地震と水害でしょうか。

この防災会を機動的に動かしているのが、新神田校下子どもを育み住み良いまちづくりの会（育む会）です。2002年（平成13年）

に設立。2カ月に1回開催。2016年2月で74回を数えました。

(2) 育む会の組織

町会長・公民館長・社会福祉協議会長・長寿会長・少連委員長・体育部長・赤十字奉仕団委員長・交通推進隊長・防災委員・小学校育友会長・中学校PTA会長・防犯委員・小中学校長・市議会議員・入江交番・市消防局などです。

(3) 育む会の活動内容

- ・ 自主防災訓練の推進・啓発
- ・ 防犯防火パトロール
- ・ 登下校時の声かけ運動
- ・ 中学校との立志式
- ・ 小中学生とのクリーンキャンペーン、ラジオ体操、シェイクアウト訓練&ひなん訓練（7月）
- ・ 子ども消防クラブ、女性防火クラブの育成
- ・ 防災カルタ、新神田検定など

(4) 防災会の活動内容

ア 新神田小学校で行う

「本部訓練」

- ・ 通常の訓練（煙中、はしご車、地震体験車、消火器、バケツリレー、天ぷら油、三角巾、簡易担架、炊き出し）
- ・ 被災状況等の情報収集、安否確認

- ・ 民生委員、社会福祉推進員との安否確認
- ・ ひなん済張り紙訓練
- ・ 災害ボランティア受付訓練
- ・ 避難所組織立ち上げ運営訓練、

- ・仮設トイレ組み立て訓練
- ・自主防災倉庫の点検



ひなん済み張り紙、被災状況張り紙

- ・子ども消防クラブ、女性防火クラブの活性化
- ・中学校ボランティア団体「なごりん隊」の参加
- ・学生、外国人の参加
- ・シェイクアウト訓練
- ・①しゃがむ②かくれる③じつと（とする）
- ・イ各町会で1名選任した防災委員が中心になって行う
- ・「まちなか訓練」
- ・町会役員の図上訓練
- ・わが町危険度チェック、要援護者マッピング、安否確認、情報収集訓練
- ・各町会でのシェイクアウト訓練
- ・民生委員が把握している災害時の要援護者（図上訓練での要援護者とは異なる）の安否確認
- ・「ひなん済み」、「被災状況」の貼付

- ・消火器訓練、AED訓練、炊き出し訓練、土のう積み訓練、三角巾など応急救護訓練

（5）訓練の進化の例

- ・毎年マンネリ化を防ぐため、いろいろ工夫しています。
- ①金沢市職員の地区支部員と公民館委員と合同で避難所の開設運営のためのワークショップ（HUG）の実施
- ②新神田小学校の子ども消防クラブ員による訓練体験
- ③高岡中学校のボランティア団体「なごりん隊」の各種体験のほか、炊き出し訓練の手伝い



約500人によるシェイクアウト訓練

- ④民生委員・社会福祉推進員の担当している保護者（要援護者）の安否確認
- ⑥3年目になる石川県が進めているシェイクアウト訓練の継続参加

- ⑦市主催の「次世代リーダー養成塾」の学生の参加
- ⑧市の国際交流課が把握している外国人の参加による避難所多言語対応マニュアルの運営
- ⑨更に新規に全戸配布の「災害時安心シート」「防災覚書シート」を配布し、防災意識の高揚

（6）通年訓練の例

- ①各町会の防災委員（ちなみに防災委員長は、公民館の副館長・防災委員会は通年で防災学習）は、力量に応じて年間通して防災訓練をしています。町会の夏祭りなどでのテント張りやアルファ米の炊き出しなどは防災訓練の一環。楽しく何時でも実施。
- ②7月の小・中生、地元住民と実施するクリーンキャンペーンは、ゴミを集めながら高岡中学校に集合。シェイクアウト訓練。町会ごとに集合した人数避難者数）を把握し情報班長に報告。
- ③9月の社会体育大会の昼食時にシェイクアウト訓練。年数回、あらゆる機会を通じて実施。
- ④「まちなか訓練」報告会実施
9月には、防災委員の情報交換の場として、個別住宅の多い町会、マンション住宅町会、河川に近い町会、用水の多い町会などが地域の特性に応じて訓練内容の報告があった。初めて

知ることが多く今後の参考に
なりました。



各町会の防災委員の報告会

3、成果と課題

毎年、新しい訓練をどんどん取り入れていきます。そのたびに問題点が指摘されます。
訓練後、直ちに反省会を実施。全員に話して貰います。この反省があるから次の訓練に繋がっています。来年の課題は、ひなん済み張り紙の貼付率アップです。
公民館は、生涯学習の場の提供だけではありません。
積極的に地域の安全安心のため関わり、訓練を通して絆を深めながら、安全安心を未来の子どもたちに引き継ぎ、地域に根を張る公民館だからこそ出来る「訓練なくして実践なし」の精神を広めたいと思います。